

ました、そのほうが学問的交流に便利だとのことです。

*

15. 核医学の取扱範囲

齊藤 宏

(名古屋大学放射線科)

アイソトープの医学的利用は基礎のトレーサー実験、臨床の診断用検査と治療とに大別される。核医学の主体は検査診断にあり、非密封線源による治療は含まれるが、密封線源によるものは含まない。核医学はアイソトープ

の医学的利用方法の開発が主目的である。臨床医師のみならず、基礎医学者、機械工学者、物理化学者、薬学者などの参加協力がみられる。技師の参加も望まれる。米国核医学会では、教育コース、核開拓者の講演などがあるが日本では行なわれていない。米国では代謝、放射性医薬品、スキャン等の演題が多くみられる。核医学の教育は日本ではほとんどなされていないが米国ではインターンレジデントを通じ3年の訓練を考えている。放射線科では6ヶ月、内科では1年が予定されている。またフェロシップも利用される。

* * * * *
* * * *